

伊丹のカメ類について～伊丹市生物多様性市民参加型調査結果より～

原田修（伊丹市市民自治部環境政策室みどり自然課）

The freshwater turtle's records collected by citizen in Itami city, Hyogo prefecture

By Osamu HARADA

伊丹市は、兵庫県南東部に位置し、神戸市から約 20 km、大阪市から約 10 km の市街地であり、市内に残された自然はわずかで昆陽池・瑞ヶ池・緑ヶ丘の各公園と猪名川の段丘崖の伊丹緑地が一連の緑地帯として保全・再生され、都市環境下で生態系ネットワークを形成している。

今回のカメ類の調査は、生物多様性いたみ戦略に基づき、市民参加型調査として 2015 年 4 月から 10 月まで実施したもので、市民の方々が市内でカメを見かけた際、市ホームページ等に掲載した調査用紙に見つけた場所やカメの種類や個体数などを記録し、報告をいただいた。

結果は、報告件数 112 件、カメの総数は重複するものも含め 1,176 匹であった。内訳として、ニホンイシガメ 8 匹、スッポン 10 匹、クサガメ 90 匹、アカミミガメ 1,053 匹、その他不明 13 匹と 9 割以上がアカミミガメであり、大半が河川、ため池での目撃情報であった。

さらに、個体数が多いため池では、いずれでもその半数以上がアカミミガメであり、市内で優占化していることが確認された（図 1）。

また、西池・黒池では、隣接する兵庫県立伊丹北高等学校自然科学部がカメの捕獲調査を 2011 年より継続的に行っており、ここで捕獲したアカミミガメは市が引き取り処分している。その結果、西池はクサガメの目撃例が多く、また、明確な因果関係は確認できなかったが、今年は、2002 年以来確認されていなかった絶滅危惧種のオニバスが今年 15 年ぶりに大きな葉を広げるなど、同部によるカメ類の捕獲調査が果たした役割は大きいと考えられた。

今後もカメの調査を継続すること、また、行政として市民団体や学校等の生物多様性の保全の取り組みについて把握・連携・支援することが重要と考えている。

最後に、調査全般についてご指導いただいた兵庫県立大学の太田英利教授をはじめ、調査に参加協力をいただいた市民の皆様に改めて感謝申し上げる。

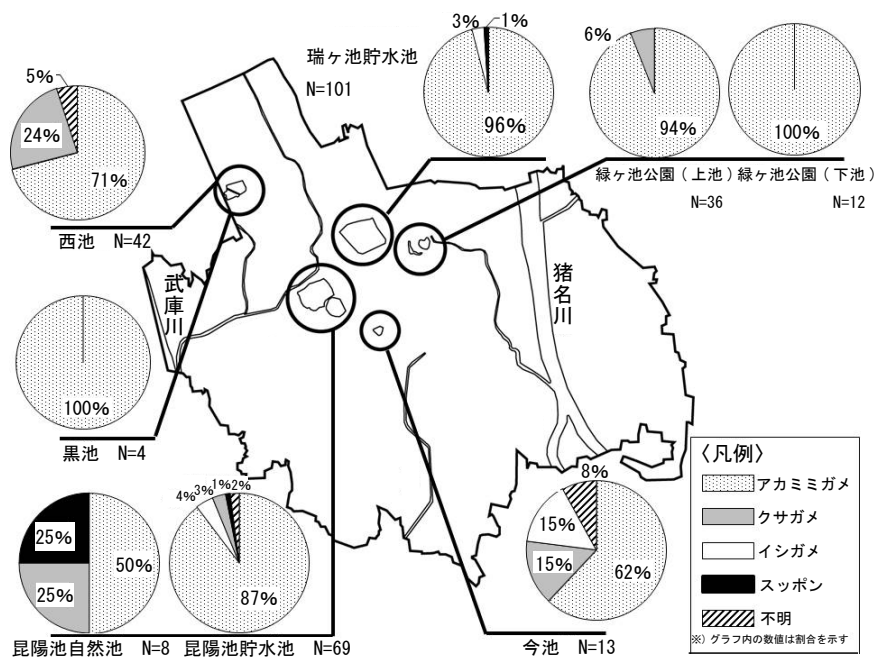


図 1. カメの目撃個体数が多かった 8 箇所のため池でのカメの種構成